

魂を込めたものづくりを貫く 世界レベルの技術集団



高い技術力が要求される、非鉄金属部品の加工に高い実績を誇る株式会社千田精密工業。「地域社会の貢献」を企業理念に、「確かなものづくりで信頼される企業」をめざしている。

岩手県奥州市。前沢駅から車でほど近くのある場所に、株式会社千田精密工業の本社がある。

同社は1979年、現代取締役・千田伏二夫社長が創業。半導体製造装置部品・液晶製造装置部品・自動車関連部品の加工・製造を行う企業だ。

同社の最大の特徴は、「量産はしない、魂を込めたものづくり」をモットーとした、少量・多品種・高精度で付加価値の高い加工部品製作にある。

同社の事業の8割が半導体製造装置部品の製造である。特にアルミやステンレスなど、扱いが難しいといわれる非鉄金属を1/1000mmの精度で加工。大量生産は請けず、製品の設計段階から顧客と打ち合わせを行い、完成までを請負う「一貫生産体制」を築いており、数の少ないサンプル・試作品等の製造も得意としている。

また自動車関連部品は、市販の自動車部品ではなく、開発における性能試験用や展示会用の特殊な車両部品のみを手がける。1999年にはモータースポーツの最高峰・F1シリーズで優勝した「無限ホンダ」のエンジン部品加工に携わったことでも知られている。

新技術「FSW」の普及促進に力を注ぐ

近年、同社が力を入れているのが、1991年にTWI (英国接合・溶接研究所) が発明した「FSW(摩

擦攪拌接合)」。金属の接合部を攪拌して材料を溶かさずに一体化させる新技術だ。

アルミ部品は熱を加えると変形しやすく、溶接しにくいという課題があった。しかしこの技術を使うことで、部品を局部的に軟化させ、少ないエネルギー消費で、複雑な形状の製品でも、ひずみを少なく接合できる。同社では2005年にライセンス契約を締結したのを機に導入し、素粒子実験用部品や半導体装置関連の製品に応用している。

「中小企業でFSWを導入している企業は少ないと思います。新しい技術なので、メーカーは技術の活用に対してまだ消極的な部分が見受けられます。展示会などを通して、FSWの技術力をもっと訴求していきたい」

そう語るのは、同社の営業における責任者を務める千田ゆきえ取締役である。

「我々は生産集団ではなく技術集団」 女性の仕事と子育ての両立も支援

千田氏は社長の次女で、同社が創業した1979年に生まれた。短大卒業後、半導体装置関連企業で2年間の勤務を経て、2002年からは東京のデザイン会社で企画・営業を担当していた。

当時、千田氏は後を継ぐつもりではなかった。同社に入社したのは2007年のこと。フランスへ旅行した際、華やかなパリと、対照的な郊外を目



一貫生産体制で半導体製造装置や、自動車部品の加工を行う。少数の特注製品の加工が同社の強みだ。



株式会社千田精密工業
岩手県奥州市前沢区五合田19-1
TEL: 0197-56-2464
HP: 千田精密工業

検索

取締役 千田ゆきえ (ちだ・ゆきえ)

1979年、岩手県生まれ。2000年、青山学院女子短期大学を卒業後、半導体製造装置メーカー勤務、デザイン会社での企画・営業職を経て、2007年に父の経営する株式会社千田精密工業に入社。

千田精密工業の経営モットー

- 1 量産はせず、魂を込めたものづくりに徹する
- 2 新しい技術を積極的に提案し顧客を獲得する
- 3 女性が働きやすい環境づくりをめざす

「岩手、東北が持つ技術力を世界中に示す」 世界最先端の素粒子実験施設ILCを誘致

機械のみに頼らず、高付加価値のものづくりを行ってきた同社が持つ最高の技術力。それをさらに広く普及させ、着実な実績と信頼を築いているのが千田氏の営業力だ。2005年に約10億円だった売上は前期は18億円を超え、今後もさらなる好調が予想される。

今後、同社が強い期待を寄せるのが、北上山地に誘致計画が進められている世界最先端の素粒子実験施設「ILC (国際リニアコライダー)」だ。これは、電子と陽電子を正面衝突させることで、宇宙の仕組みを解明しようと国際協力プロジェクトとして建設計画が進められている。2020年代の稼働に向けて、岩手県は一体となって取り組みを進めており、千田氏はその誘致活動にも積極的に参加している。

「ILCが実現すれば、岩手、そして東北の技術力を国内だけでなく、世界中に示すきっかけとなります。当社もその一翼を担い『岩手に千田精密あり』と認知されるような企業に成長していきたい」

工場長でもある夫の雄二氏とともに、いずれは同社を担う千田氏。新たな挑戦を前に、その目はキラキラと輝いている。e

にした時、思いがけず東京と岩手に重なった。「岩手にもっと貢献したい。地元を盛り上げたい」との思いが強く湧き、帰国後、父に「入社させてください」と頭を下げ、同社の一員となった。

社員は現在103名。千田氏は語る。

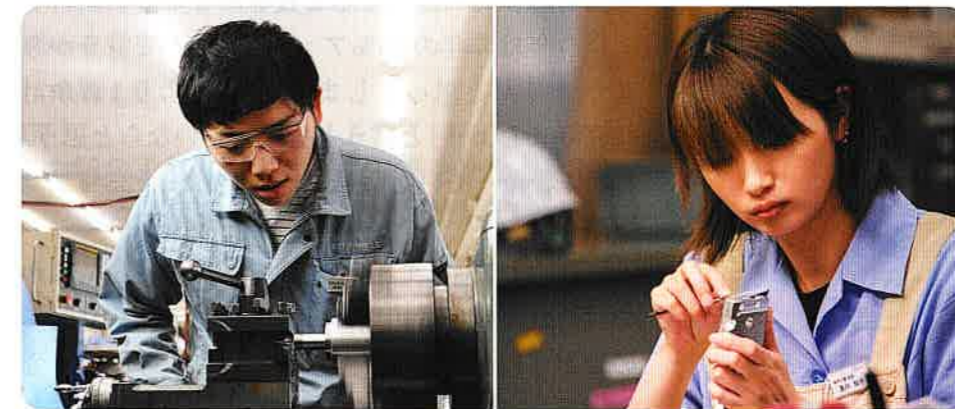
「一人ひとりが技術者であることが、ものづくりの原点。その技術者を育成するのも会社の使命だと考えています」

さらに、取引先からの難題に正面から挑むことで技術力を高め、ノウハウを蓄積してきたという伝統と誇りがある。

「私たちは生産集団ではなく技術集団です。単純な加工の注文は大量発注であってもお断わりしてきました。お客様に『こんな技術も可能なのか』『こんな短納期で実現できるのか』と感動してもらえるようなものづくりに努めています」

社員の20%が女性。出産があるか否か以外に男女の違いはないと千田氏は考えている。仕事と子育ての両立を支援するために、子育て推進員を社内に配置。出産後は小学生就学まで短時間勤務制度を活用できる。2016年3月には岩手県より「いわて子育てにやさしい企業」の認証を得ている。

「私が入社してからの約10年間で、延べ12名の社員が産休・育休を取得しています。これからも現場レベルの業務だけでなく、今以上に女性が働きやすい環境作りをめざします」



「量産はしない、魂を込めたものづくり」をモットーにどんな難しい加工も引き受ける。女性従業員の多くは、仕上げ作業やクリーンルームでの洗浄を担当している。